

沖縄都市モノレール株式会社

「開業20周年を迎えて」



令和5年8月10日沖縄都市モノレール（ゆいレール）は開業20周年を迎えました。

沖縄都市モノレールは20年前の平成15年、那覇都市圏の慢性的な交通混雑の緩和と、沖縄県中南部の都市機能の向上を促進する戦後初の軌道系公共交通機関として、一日平均31,350人を目指乗客数に運行を開始いたしました。

開業10年後の平成25年に一日平均乗客数が4万人を超え、また開業15年後にあたる平成30年に5万人を超え、さらに浦添延長区間の開業翌年の令和元年には過去最高の55,766人を記録するに至っております。

一方で乗客数の増加に伴い、朝夕の通勤通学ラッシュ時には首都圏並みの混雑や乗り残しといった現象が発生するようになりました。現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に乗客数の減少が見られるものの、アフターコロナにおいて、乗客数の回復と更なる増加が予想されております。このため、3両化導入加速化事業に鋭意取り組んでおり、今年度は2編成の3両編成車両が運行開始し、段階的に9編成の3両編成車両を導入する計画としています。

私共は、開業以来継続している無事故・安全運行を第一に、沖縄県になくてはならない公共交通機関としての役割を果たすべく、今後も邁進してまいります。



「ゆいレール開業20周年記念式典及び3両編成車両出発式」

(2023年8月10日)

「3両編成車両の導入」

3両編成車両については、令和4年度末に2編成が納車されて、試験走行や習熟運転を行って、令和5年8月10日に運行を開始しております。



3両編成車両の運行開始

3両編成車両の特徴としては、1編成当たりの定員が、2両165人から3両251人へ増加することから、輸送力が約1.5倍に増強されることになります。

また、観光客のお客様が大型のキャリーバッグを携行することにより、車内が混雑することから、大型の荷物を収納するため、大型荷物置場を4箇所に設置しております。



次に、大規模地震等の非常時において、救援列車による救助が困難な場合を想定して、3両編成車両では、シューターを搭載しております。シューターは筒状の脱出袋を地上まで展開することにより、内部がらせん構造になっていることから、緩やかな速度で安全に、地上まで降下することができます。

以上のことより、3両編成車両では輸送力増強のほか、サービスや安全面での機能強化に取り組んでおります。



〈問い合わせ〉
沖縄都市モノレール株式会社 総務課
電話：098-859-2630